

## ERE information

VOL. 2 2003年1月1日発行

発行/日本経済学教育協会・事務局 発行責任者/松崎 英樹  
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町3番21号 電話(03)3267-4819

## 〈第2回〉 E R E 成績発表

去る10月27日(日)に全国一斉に実施いたしました第2回 E R E の試験結果について、各科目における最高正解率および最低正解率の問題を列挙いたしますので、下表の成績結果とあわせ、各科目の成績の特徴等を分析する際の参考にさせていただければと思います。

- 【ミクロ経済学】〔問1〕機会費用 (66.58%) / 〔問25〕企業の生産行動と課税・補助金 (16.65%)  
 【マクロ経済学】〔問27〕国民経済計算 (70.62%) / 〔問49〕効率的賃金仮説 (16.14%)  
 【財政学】〔問51〕政府の役割 (85.75%) / 〔問60〕公債の経済的効果 (33.67%)  
 【金融論】〔問62〕メインバンク (81.84%) / 〔問64〕マネーサプライの定義 (17.91%)  
 【国際経済】〔問71〕小国と大国の貿易 (46.78%) / 〔問76〕為替レートの決定理論 (16.39%)  
 【統計学】〔問90〕データ解析 (46.41%) / 〔問86〕正規分布・t分布・カイ2乗分布・F分布 (10.59%)  
 【時事経済】〔問96〕郵政三事業の改革 (66.83%) / 〔問95〕商法改正 (25.85%)

なお、今回、いずれの科目の平均点も前回(第1回)より下回る結果となりましたが、相対的に統計学の平均点が最も低く、標準偏差も全科目中最低であることから、大方の受験者が「統計学」に苦戦したといえるのではないのでしょうか。

〈成績概要〉	(第2回)	(第1回)	(増減)
●応募者数	1,087名	(1,230名)	▲143名
●受験者数	793名	(1,012名)	▲219名
●平均点	420.3点	(463.7点)	▲43.4点
●分散	14397.55	(14060.80)	336.75
●標準偏差	119.99点	(118.58点)	1.41
●最高得点	790点(1人)	(860点)	

## 〈科目別成績〉

科目	ミクロ経済学	マクロ経済学	財政学	金融論	国際経済
配点	250点	250点	100点	100点	100点
平均点 (前回)	105.3点 (110.7点)	119.9点 (120.0点)	53.9点 (56.7点)	51.1点 (42.9点)	28.5点 (39.7点)
分散	1566.02	1308.32	416.59	413.48	398.17
標準偏差 (前回)	39.57点 (41.85点)	36.17点 (39.62点)	20.41点 (20.18点)	20.33点 (19.66点)	19.95点 (18.02点)

科目	統計学	時事経済	〈ランク別人数・構成割合〉				
			ランク	2回	割合	1回	割合
配点	100点	100点					
平均点 (前回)	25.2点 (32.5点)	44.2点 (61.2点)	A	0	0.00	1	0.10
分散	292.96	309.89	B	17	2.14	31	3.06
標準偏差 (前回)	17.12点 (16.33点)	17.60点 (18.13点)	C	196	24.72	347	34.29
			D	580	73.14	633	62.55
			総数	793	100.00	1,012	100.00

# 「学力は能力の大切な一部です」

～第2回トップ・今井和幸さんにお聞きしました～

第2回EREで790点を獲得された国際協力銀行の今井和幸さんに  
今回のご受験に関してお話をうかがってみました。

今井さんは1995年に東京大学（経済学部）をご卒業後、日本輸出入銀行（現：国際協力銀行）に入行され、東ヨーロッパ経済の調査、中南米向けの融資等の業務に携われ、ブラジルに3年間赴任された後、現在は審査部でご活躍されています。

**▲受験の動機は？**：現時点での自分の力を把握しなかったということと、日本社会における経済学のレベル・浸透度・地位の低さについては従来から疑問を感じており、経済学を修了した者としてEREの受験を通して少しでも日本経済学教育協会の活動をサポートしたいと思ったので受験しました。

**▲受験の対策は？**：経済法令研究会の問題解説集と日本評論社の問題解説集を一通り解いてみて、前者を繰り返しました。

**▲受験の感想は？**：Aランク入りできれば御の字と思っていましたが、やはり難しく、時間の割には問題数が多く、手強い感じでした。また、定理・概念など勉強していないと分からないものも多く、受験して高得点を狙うには、経済学全般をしっかりと勉強しなければ駄目だと思いました。

**▲最後に一言**：経済学の知識レベルを測定する機会ができたことを嬉しく思います。ただ、学力は能力の一部、大切な一部ですがそれが全てではありませんし、テストも所詮テストであって、能力を示す参考値ではあるけれどもそれで能力の全てが測れるわけではありません。

結果に一喜一憂することなく、自分の能力をチェックすることにより能力を維持しさらに伸ばしつづけようとする気持ち、それが大切なのだらうと思います。どんな優れた能力も維持する努力を怠ると確実に衰えていきますから。そういう意欲を持った受験者が増えて、結果的に日本の経済学の実践面でのレベルというか、社会での活用度というかが底上げされていけばいいと期待しています。

## 〈成績優秀者上位30名（敬称略）〉

- ①今井和幸(国際協力銀行)／②加賀林陽介(内閣府)／③田中誓(慶應義塾大学)／④匿名／  
⑤三宅英雄(公務員セミナー)／⑥匿名／⑦川元康一(京都大学)／  
⑧山根洋平(早稲田大学)／⑨匿名／⑩星川隼也(横浜国立大学)／⑪堀口岳史(早稲田大学)  
⑫大岡勝美(日本銀行)／⑬匿名(立命館大学)／⑭松本典久(京都大学)／  
⑮熊崎貴之(慶應義塾大学)／⑯赤井啓人(同志社大学)／⑰三宅建史(慶應義塾大学大学院)  
⑱外山大蔵(中萬学院)／⑲水野伸宏(京都大学)／⑳大石太郎(関西大学)／  
㉑西口友貴(立命館大学)／㉒匿名／㉓村田樹一／㉔匿名／㉕永山浩二／㉖原田文教／  
㉗柏本昭夫(大和銀行)／㉘白川輝幸(神戸大学)／㉙梶村麻衣子(東京大学)／㉚匿名

## 2003年 E R E（経済学検定試験）実施要項

2003年（第3回および第4回）の E R E（経済学検定試験）の実施および内容等の概要は、次のとおりです。詳しくは検定試験運営センターにお問合せください（TEL：03-3267-4821）。なお、詳しい資料のご請求については4ページ下に資料請求書がございますので、コピーしてご利用ください。

■ ホームページ【<http://vivid-keizai.khk.co.jp>】

■ e-mail【[info.vivid-keizai.khk.co.jp](mailto:info.vivid-keizai.khk.co.jp)】

### ◆実施要項

実施回	第 3 回	第 4 回
試験日	2003年3月2日（日）	2003年10月26日（日）
試験時間	10：00～12：30（150分）	10：00～12：30（150分）
受験願書 受付期間	2002年11月1日（金）～ 2003年1月23日（木）必着	2003年7月1日（火）～ 2003年9月10日（水）必着
受験料	3,150円（消費税込）	
出題形式・出題数	4 答択一式／100問／1問10点、1000点満点	
持込品	受験票、筆記用具（HBの鉛筆、プラスチック製消しゴム）、電卓（ただし、ポケコン、関数・メモ機能付は不可）、顔写真付身分証明書（運転免許証・パスポート・学生証等）	
正解発表	弊会ホームページにて3月5日（水） 17：00より掲載予定	弊会ホームページにて11月5日（水） 17：00より掲載予定
成績通知	4月上旬頃、願書記載住所へ送付	11月中旬頃、願書記載住所へ送付

※正解・合否について、日本経済学教育協会および検定試験運営センターへの電話でのお問合せはいっさいお断りしていますので、ご了承ください。

### ◆出題科目と範囲

ミクロ経済学 （250点）	市場と需要・供給、消費者と需要、企業と生産関数・費用関数市場の長期供給曲線、完全競争市場、厚生経済学、不完全競争市場、市場の失敗、不確実性と情報、ゲーム理論、異時点間の資源配分
マクロ経済学 （250点）	国民所得、消費と貯蓄の理論、投資理論、経済政策の有効性、貨幣需要と貨幣供給、インフレーション、失業の理論、経済成長理論
財政学 （100点）	予算制度、財政政策の効果、財政運営、公債、課税の効率性、課税の効率性、課税の公平性、公共財、社会保障、地方財政、公共選択
金融論 （100点）	日本の資金循環の特徴、間接金融・直接金融、市場型間接金融、証券市場、金融機関の役割、金融技術、金融政策、為替の決定理論、郵貯・財政投融資、金融ミクロ理論、金融マクロ理論
国際経済 （100点）	比較優位の理論、直接投資、貿易政策、外国為替市場、国際収支、国際資本移動、累積債務問題
統計学 （100点）	確率、平均・分散、正規分布、t-分布・ $X^2$ 検定・f検定、仮説検定、相関係数、最小2乗法、内生変数、外生変数・先決変数、因果性テスト、構造形・誘導形、データ解析
時事経済 （100点）	最新の経済問題・記事・ニュース

◆偏差値によるランク判定

試験結果は、下記のとおり、偏差値により7段階で判定します。

EREの目的は受験者の経済学の理解度を客観的に判定することであり、複数回受験される方々の学力の向上を確認することにも役立ちます。第3回EREより、学力の向上度をより細かく判定するために、ランクを従来の5段階より7段階に変更し、同時に、各回の成績より総合的な比較のために、素点によるランク判定から偏差値によるランク判定に移行しました。

偏差値による成績比較は得点分布が正規分布に従う場合には有用ですが、分布が正規分布から大きく外れる場合にはかえって不都合な場合もあります。EREの得点分布は偏差値比較の前提条件を満たしていると判断しますが、今後とも受験者の皆様に不利益が生じないよう不断にチェックいたします。

ランク	偏差値	範囲	レベル内容
S	73以上	上位1%以上	経済分野でプロとして通用するレベルに達している。
A+	66~73未満	1.1~5.0%	大学院博士課程レベル、ビジネス社会で経済学を活用できる。
A	60~66未満	5.1~15.0%	大学院入学者レベル、経済専門紙を十分読みこなせる。
B+	55~60未満	15.1~30.0%	経済学部卒業生レベル、経済ニュース・報道を理解できる基本知識を習得している。
B	47~55未満	30.1~60.0%	経済学の基本知識を習得しているが、復習が必要である。
C	37~47未満	60.1~90.0%	経済学の不得意科目を基本から学習し直す必要がある。
D	37未満	90.1~100%	経済学全般を基本から学習し直す必要がある。

-----キ-----リ-----ト-----リ-----

ERE（経済学検定試験）受験案内請求書

FAX 03-3267-4999

検定試験運営センター(ERE係)行

第3回ERE受験案内	部
------------	---

◆送付先住所 〒

TEL

e-mail

◆氏名